

令和二年度
第五十九期生

合格体験記

熊本学園大学付属高等学校

進路指導部



発刊に寄せて

進路指導部 部長 岡田治

【私立大学・専門学校等】

【特別推薦特待生】

○熊本学園大学 商学部 商学科 Y・O

【公募推薦・アスリート選抜入試】

○熊本保健科学大学 保健科学部 看護学科 Y・S

○早稲田大学 スポーツ科学部 スポーツ学科 M・I

【指定校推薦】

○北里大学 獣医学部 獣医学科 M・F

○明治大学 総合数理学部 ネットワークデザイン学科 S・H

○西南学院大学 外国語学部 外国語学科 Y・N

【国公立大学】

【AO入試】

○新潟大学 工学部 工学科 機械システム工学 F・O

○熊本大学 法学部グローバルリーダーコース R・T

○熊本大学 理学部グローバルリーダーコース N・I

○熊本県立大学 総合管理理学部 総合管理学科 M・M

【推薦I・セクターを課さない推薦】

○横浜国立大学 経営学部 R・N

○山口大学 教育学部 幼児教育コース C・F

○熊本大学 文学部 総合人間学科 Y・A

【推薦II・セクターを課す推薦】

○熊本大学 教育学部 小学校教員養成課程 H・M

【一般入試 前期日程】

○筑波大学 体育専門学群 M・M

○山形大学 理学部 理学科 E・I

○埼玉大学 教養学部 教養学科 K・H

○山口大学 工学部 社会建設工学科 R・M

○佐賀大学 理工学部 理工学科 M・N

○佐賀大学 理工学部 理工学科 H・W

○長崎大学 多文化社会学部 H・I

○大分大学 理工学部 創生工学科 A・M

○熊本大学 薬学部 創薬・生命薬科学科 K・H

○熊本大学 工学部 材料応用化学科 M・N

○熊本大学 法学部 法学科 法学・公共政策学 S・T

○熊本大学 文学部 歴史学科 S・T

○熊本大学 教育学部 中学校 保健体育 T・M

○熊本大学 教育学部 中学校 音楽 K・Y

○熊本県立大学 環境共生学部 環境共生食健康 R・K

○鹿児島大学 工学部 建築学科 H・T

○鹿児島大学 工学部 先進工学科電気電子工学 F・K

○鹿児島大学 法学部 法経社会学科 A・R

○宮崎大学 教育学部 学校教育 発達支援 M・Y

【一般入試 後期日程】

○熊本県立大学 総合管理学部 総合管理学科 S・Y

○鹿児島大学 水産学部 水産学 水産資源 T・I

○鹿児島大学 法学部 人文学科 多元地域 R・N

【就職】

○人吉市役所 N・F

合格体験記発刊に寄せて

進路部長 岡田公治

五十九期生諸君・・・熊本地震から四年が経とうとしている中で、復興も道半ばの日々を経験しつつ、新型コロナウイルスの猛威により、卒業式をはじめとするすべての学校活動を中止せざるを得なくなり、全世界が未曾有の事態となる中で、グローバル化による流れの速い現代社会を見据えつつ、今の自分から未来の自分を照らし合わせながらの進路決定は、さぞかし大変だった事でしょう。後輩への「道標」としての「合格体験記」執筆を依頼するにあたり、五十九期生諸君が、「後輩のためになのであれば・・・」と、その依頼を快く引き受けていただいていたことは、母校や後輩へ対する思いやりとして、その意義を十二分に受けて止めております。五十九期生の健闘を賞賛し、感謝の意を表します。

これから受験期を迎える在校生諸君！現代社会は成長社会から成熟社会へと移り、その流れと変化がとても早い時代となってきました。今後の世の中では、その多くの仕事はAIへと置き換わるとも言われている中で、人間でしかできないことを模索して行かなくてはなりません。

しかし、人間でしかできないことって、必ずあります！大切なことは、中学校や高校で経験した「探究」にもあったのではないのでしょうか？つまり、自助・共助・公助の取り組みもその一つです。つまり、他者を認め、協調的にチームとして対応することが重要なのです。そう、「仲間」です。

多様化する社会に対して、大学入試も多様化の流れとなつて来ています。五十九期生の多くが多様な入試を経験してい

ることからも納得できるのではないのでしょうか。これまでの入試は知識重視型（知識の資本主義）で、これからの入試は知識運用型（知恵の創造主義）とも言えるわけで、そこで必要とされるものとは、やはり、チーム力です。

チーム力の高い集団は五十九期生。諸君が学年全員で体現してくれたように、チーム力の高い集団は、進路決定に対しても、とても高い結果となります。そこで、これを読んでいる在校生諸君・・・チーム学付・・・学年を越えて、また、生徒と教師の枠も取っ払って、学習する組織として付属高校全体でチームを形成しましょう！

中国のことわざ・・・

ある人に魚を一匹与えれば、一日食える。

魚の捕り方を教えれば、その人は一生を通して食える。

意識して欲しいことは・・・主体的な学習！！

私たち教職員は、みんなと共に、師弟同行のもと、魚は与えません。チーム学付のメンバーとして、一緒に魚の釣り方を学びましょう。自分で思い描いた大きな魚を捕まえるため・・・。

最後に、自分軸をぶらさずに一生懸命に歩んだ五十九期生の「合格体験記」が後輩達へと渡される糧として受けつがれ、後輩達の進路実現への「道標」となることを期待して・・・。



「今をたいせつにすること」

熊本学園大学 商学部 商学科

(特待生推薦)

西合志南中学校出身 Y・O

私がこの制度を利用して熊本学園大学を受験しようとしたのは三年生の夏休みでした。一番の理由は公認会計士という資格を取得したいという一つの目標があったからです。それまでは国公立文系五教科選抜クラスに所属していたため、自然と国公立大学を目指していました。しかし進路を真剣に考えたとき、果たして自分は大学にただ行きたいのか、公認会計士の資格を取得したいのか、自分の興味がある学問を学びたいのか、どれも大事なことではあるため、どれが本当に重要な意思なのか分からなくなっていました。そのように私が進路を決める上で悩んでいる時に、何を第一優先事項にするか順位をつけなさいと教えてくださった、ある先生のお言葉を思い出しました。その言葉を含め、一番納得ができた選択が資格を取得して将来の夢を叶えることであり、それを実現させることが出来るのがこの進路でした。進路を決めていくにあたって、自分の学力がどうなのかということを中心に考えがちです。ですが、最初に“私の、私だけの人生”をどのようにしたいかを考えてみてください。少し大それたことを言っているかもしれませんが、このような自己分析は、その進路を確実なものにするだけでなく、その先のビジョンを設計することができ、更に自分に自信を持つことが出来ます。

しかし、こうして私がこの受験方式を受験出来たのは、紛

れもなく“過去の私”のおかげです。一、二年生時に意欲的に授業に臨み、定期考査を受けていた結果が、進路を決めていく上で選択を広くしてくれました。決して胸を張って過去二年間の自分はコッコツと大学受験に向けてやってきたとは言えません。ですが、一度しかない授業、定期考査、学校行事、部活動、全てを後悔せず全力で取り組んでみてください。その“今”は必ず“未来”の糧になると、受験を通して学びました。私は結果論としてこのことに気づくことが出来ました。結局は未来のことは誰にも分かりません。しかし、良い事も悪い事も“未来の私”に繋がっていると断言できるのです。このことを“今”から意識して行動してみてください。

最後に、友達と、クラスの仲間と、先生と、家族と沢山語ってください。自信を持てる進路決定が出来たのは、それぞれに違った不安や悩みを持っている仲間たちと、それらを何度も共有し、理解し、お互いを励ましあってこれたからだと思います。私にとつてこのことは、これから先も心の支えになると思います。

“未来の自分”が後悔しないために、“今”を全力で取り組んでください!!応援しています。



「志望校を母校に」

熊本保健科学大学 保健科学部 看護学科

(一般公募推薦入試)

力合中学校出身 Y・S

昨年の今頃は、先輩方の体験記を読んで受験を乗り越えられるか不安だったことを覚えています。自分が書くことになるとは思っていませんでしたが、少しでも参考になれば嬉しいです。勉強面については、きつと他の皆が書いてくれると思うので、私は面接対策に焦点を当てたいと思います。

私は、受験予定の大学入試全てに面接が必要でした。そのため三年時の最初の学年集会で岡田先生がお話しされたその日から夢ノートを作り始めました。簡単に言うと、夢ノートは夢や目標に向けて自由を作るノートです。人によって内容は様々ですが、結果として本当に作ってよかったです。理由として、大学について自分専用にとまとめる事で、考えが明白になり、面接で伝えたいことや志望理由なども明白になり、新聞の切り抜きを貼ることで知識も増やせる上に、早くから面接対策が出来るので、入試直前に面接のことで焦ることはなく、筆記試験の勉強に全力を注ぐことが出来たからです。この事から私が伝えたいのは、決めたことをすぐに実行し、それを続ける習慣の大切さです。受験期には特に必要な力だと思えます。

また、オープンキャンパスで大学の先生の印象に残るよう、相談会などに積極的に参加したり、一年生の頃から校外活動のボランティアや看護体験などにこれでもかというほど参加していました。面接時のアピールポイントになるのでお

ススメです。今思うと、受験期にはそんな余裕はないので一年生の頃から色々なことに参加しておいて良かったなと思います。

勉強面で少しだけ思うことは、英単語や古文単語は三年生になる前に完璧にしておけば良かったなということです。後は、自分の志望校の入試にどんな対策が必要なのか早めに調べ終えておくことは大切です。早めの対策は受験時の自信と力になります。

また、先生方は、受験のスペシャリストなので沢山の経験から色々なことを教えて下さいます。私自身が担任の先生の一言で志望校を今の大学に決めたので、自分の考えに囚われず、頂けるアドバイスは是非有り難く受け取り、役立てて欲しいです。

受験生の皆さんのことを心から応援しています。志望校を母校にするために頑張ってください。



「今できることを」

早稲田大学 スポーツ科学部 スポーツ学科

(アスリート選抜入試)

北都中学校出身 M・I

「早稲田大学」高校一年の最初の進路調査でこの五文字を書いて担任に提出した。

高校三年十一月十六日、早稲田大学から合格通知が届いた。

私が早稲田大学のスポーツ推薦を目指したのは、高校一年のときだ。なぜ早稲田大学を目指したのかは、大学で一番バドミントンの競技レベルが高く、自分が求めている専門分野があったからだ。

私は、十二年間バドミントン中心の生活を送ってきた。

「オリンピック出場」

将来の夢はなんだと聞かれたらこう答えてきた。これからもそうだろう。オリンピックは、スポーツを本気でやっている人なら誰しもが出たいと思う大会だ。私は、その舞台にバドミントン競技日本代表として出場したい。それと共にスポーツだけではなく、勉強もしたいという気持ちがある。

中学三年生の進路を決める際に、県内や県外の高校から多数の勧誘があった。その中には全国トップレベルの高校の名前もあった。しかし、勉強もしたいという気持ちもあり、全ての高校の勧誘を断り熊本学園大学付属高校に入学した。学付に入学してしばらくすると、勉強と部活の両立について苦悩した。部活を優先したため、勉強が疎かになってしまったからだ。勉強は諦めて部活に集中しようと考えていた時に、

ある先生から「授業中に全部理解すればいいじゃん」と言われた。そんなこと出来るわけないと思いつつも、授業をい

つもより集中して聞いてみた。すると意外にも理解出来る。数学などで先生が何言ってるのかわからないときには、先生

が勉強ができる友達にすぐ質問した。このことを毎日実践している。テスト勉強もかなり効率よくすることができた。

この日から、朝昼は授業に集中、夕方と夜はバドミントンに熱中、家に帰ったら死んだように爆睡する生活を三年間続けた。すると、インターハイでは、団体、ダブルス、シングルス三種目に出場、勉強でも納得できる成績を残せ、勉強と部活の両立をすることが出来た。結局、「部活を優先したため」というのは勉強から逃げる言い訳だった。

学付にはスポーツ専願生がいる。スポーツ専願生の中には、

「スポーツで入学するのに、なぜ勉強しなきゃいけないのだ」という考えを持つ人がいると思う。確かに部活と勉強の両立は

難しい。しかし、怪我や病気でスポーツが出来なくなった時にどうやって生きていくかとなると勉強しかない。今の自分のためではなく、将来自分のためにも、勉強をやっておくことは損ではないと思う。



「道のり」

北里大学 獣医学部 獣医学科

(指定校推薦)

熊本学園大学附属中学校出身 M・F

私が受験生として最も強く感じた事は、「早期スタートは命運を分ける」だ。私の目指している学部は全国的に平均のレベルが高く、正直、高校入学時では全く目指すことの出来ない所であった。そこで、私は高校一年生から受験生になるという目標を立てた。結論から言うと、私は指定校推薦で、北里大学獣医学部獣医学科に合格した。実はこの指定校推薦は、私が高校三年生になって初めて来た推薦枠なのだ。しかし、先述した通り、私は一年生から頑張っていたので、急に来たこの推薦にも対応することが出来た。後輩の皆さんの中には受験まで時間がまだある人がいるが、時間という指標で受験生になるのでは無く、この瞬間、君たちの先輩が書いた合格体験記を読んだこの瞬間から受験生になる事を強く奨励する。では、どのように早期から受験への意識を高めることが出来るか、紹介していこうと思う。

最も手っ取り早いのが、「目標を作ること」だ。この場合の目標は、具体的であればあるほど良い。例えば「○○大学に行く」ではなく、「○○大学に行き、○○を勉強し、将来は○○になる」と目標を立てる。そうするだけでモチベーションは格段に上がる。しかし、後輩の皆さんの中には将来、やりたい事がないと思っていたり、悩んでいる方も多いと思う。だが、実際は身近な所に、自分の考えを変えてくれるきっかけは数多く存在する。これは人によつて異なると思う

が、私の実例を紹介させていただと、これは先生方には冷たい目をされると思うが、実は私は、最初私立に行きたくなかったのだ。

高校三年間、自分の中でベストを尽くして国立に行けるように努力してきたからである。そんな中、担任の先生から獣医の指定校が来た

たと知らされ、気まぐれの興味で大学のホームページや、実際にオープンキャンパスに参加するなどして、もう一度、自分の将来やりたい事を鑑みた時、獣医としての基礎だけでなく、研究にも力を入れている北里大学に強く惹かれるようになった。このように人の考えを変える機会は身近にある。私の場合、ホームページなどだ。変わるかどうかは、結局、自分自身なので「やりたい事がない」と言い訳をせず、積極的に行動し、変わる機会を増やしていくと良い。ただ、ここで留意して欲しいのが、大学のレベルで目標を作らない事だ。私も推薦を受ける際、いろいろな人からアドバイスを貰った。その中で最も聞いた事が、「自分に合った大学を探せ」だ。実際、某国立大の医学科の人で、「自分に合わない」と退学し、全く別の道に行っている人の話も聞いた。高校三年間で自分の道を見つけるか、自分の人生の数年間を棒に振ってまで自分の道を探るか、どちらが自分にとって良いかは明瞭だろう。



最後に、私自身は獣医が駄目だった時用に物理選択者であった。しかし、推薦の受験内容の内、小論文が含まれており、生物選択者に有利な内容で劣等感を覚えていた。しかし、岡田先生が親身になって小論文などの対策をして頂いたお陰で、当日の本試験では、対策していたテーマがそのままそっくりに出た。ちなみにテーマは「ゲノム編集技術について」だ。このように対策していた事が実際の受験に出たりする事がある（私自身、受ける前はあり得んだろう、と思っていたが、体験した以上信じるしかない）。なので先生から教授された事は何処か頭の隅に置いておくと、もしもの時、咄嗟に思い出せるだろう。君達の受験はこれからだと思うが、最後まで悔いのないように自分自身と向き合いながら、受験を乗り越え、人としての成長を感じて欲しい。ここまで読んでくれた高三の君へ、私の合格体験記はあまり役に立たなかつただろうが、最後まで相手の意図を汲みとろうとする姿勢は敬意を表する。断言するが、君なら出来る。



『ONETEAM』

明治大学 総合数理学部 ネットワークデザイン学科

(指定校推薦)

錦ヶ丘中学校 S・H

私は、大学受験を終えて素直に人を頼ることの大切さを強く感じました。真剣に物事に取り組めば、相手も本気で応えてくれることを多くの方々のサポートにより教わりました。そして、今ここに合格体験記を書かせていただけることを大変うれしく思います。

私が大学を意識し始めたのは、1年生の三者面談からでした。私は、その時はパイロットになりたいと担任の永杉先生に相談しました。永杉先生に、筑波大学には航空宇宙工学を学べる学部があるから目指してみないかと提案してもらいましたが、私にはツクバダイガクがわかりませんでした。さすがに筑波大学くらいは知っておけ、と言われてから自分は大学のことを全く知らないと感じました。それから大学を調べているうちに学びたいことも変化していき、冬には永杉先生と学年主任の松野先生に明治大学を目指すと宣言しました。3年生の6月に部活動を休部し本格的に受験モードに切り替えました。そこからは、平日には5時間、土日には朝から夜まで塾にこもりました。夏休みには、多い日では1日に16時間以上勉強した日もありました。東進模試の成績は、始めに比べグンとあがりましたが判定はあまり伸びませんでした。他の大学も考えてみたらと塾のチューターからも言われましたが、私はどうしても諦めることができませんでした。そんな時、厚先生から指定校推薦のお話を聞きました。

私が興味を示すと、厚先生は細かく調べて資料をくださいました。推薦枠がもらえた後は、クラスのみならず一緒に喜んでくれました。そして、担任の岩下先生には何度も志望理由書や小論文を添削してもらい、朝から

永杉先生が放課後は岩下先生が面接の練習に付き合ってくれました。そして、私は合格することができました。

ここまでの話からも分かる通り、私は多くの方々に助けられました。私が後輩の皆さんに伝えたいのは、本気で取り組み始めれば先生たちは真剣に対応してくれること、本気で取り組めばチャンスは転がってくることで、そして目標を口に出すことです。受験勉強はとて大変ですが、私が本気になったのは合格への強い意志とできない自分はカッコ悪いという取るに足らないプライドがあったからです。皆さんも自分の原動力を見つけて受験勉強頑張ってください。最後にひとこと、【今眠ればあなたは夢を見ます。今勉強をすればあなたは夢が叶います。】皆様の良い報告お待ちしております。



「西南学院大学へ合格するまで」

西南学院大学 外国語学部 外国語学科

(指定校推薦)

菊陽中学校出身 Y・N

私が心掛けていたことや取り組んだことなどを紹介したいと思います。推薦を考えている方や、まだ志望校が決まっていない方にも少しでもお役に立てれば幸いです。

私が今強く感じていることは、1年生の頃から普通にやっけてきて良かったということです。これを読んでくださっている皆さんの中には、「特別なこと」をやってきた人が推薦を貰えると思われている方が多いと思います。実際、私も推薦入試を受ける前まではそう思っていました。確かに、ボランティアや様々な活動をしていた方が、プラスに働く場面はあります。しかし、多くの大学が募集要項に評定平均値を定めているように、推薦入試で1番大切なことは、普通の生活を普通に送れていることなのです。

どういうことかと言うと、先生方が言われたことにはきちんと取り組むということです。まずは、提出物を期限内に出すとか、授業中に居眠りしないなど当たり前のことを徹底してできるようにしてみてください。そして、定期テストにしっかりと取り組むことも大切です。そのためにも自分が集中して勉強できる環境を探してみましよう。家で集中出来ないのなら、図書館や自習室に行ってみるのも手だと思います。推薦入試を受けないとしても、早い段階で集中して勉強できる環境を見つけておくことは、とても良いことだと思います。

普段の生活が大切だとこれまで書いてきましたが、やはりボランティアやホームステイなど様々な活動に参加することも大切です。推薦入試を受ける時には自己推薦文を書かなくてはならない場合が多くあります。しかし、高校時代にこういった経験をしていないとアピール材料が無い状態になってしまいます。また、中にはボランティアなどが最低条件となっている学部などもあると思うので、興味のある事には積極的に参加することをおすすめします。そして、このような活動に3年生になってから取り組むことは難しいです。ですから、1、2年生の長期休暇などを利用して、様々なことに取り組んでみてください。まだ進路が決まっていないという人も自分のしたいことが見つかる良い機会となるかもしれません。

そして、私が是非して頂きたいことは、気になっている学校のオープンキャンパスに行くことです。1年生は、受験なんてまだ先のことだしいいやと思っているかもしれませんが、でも、オープンキャンパスは大学の雰囲気を感じるこの出来る良い機会です。また、そこで感じたことは、受験の面接や、志望理由を書く際のアピールポイントともなります。そして、3年生で推薦を考えている方は是非教授に直接入試のことについて訊いてみてください。有益な情報がもらえるかもしれません。

最後になりましたが、私が受験を最後までやり通すことが出来たのは、同じ目標を持った友人の存在が大きいです。皆さんも当たり前のことを当たり前に出来る良い仲間と共に受験頑張ってください。

「私の経験から伝えたいこと」

新潟大学 工学部 工学科 機械システム工学プログラム

(A O 入試)

武蔵ヶ丘中学校出身 F・O

私は希望していた大学にA O入試が導入されたことから、この入試方式で受験しました。みなさんの中にはA O入試がどのようなものかわからない人も多いと思います。そこで私は、行っておいて良かったことや、行っておけば良かったと後悔したことなど、みなさんが今からでも始められることを私の経験を交えて書いていこうと思います。

私の受けたA O入試の選抜方法は、書類選考(自己PR・活動報告書)、小論文、プレゼンテーションを含む面接、および口頭試問が各100点の配点でした。この中でも、書類と面接では私の努力してきたことを特に生かすことができたと考えています。私はこれまでに校外での活動を多く行ってきました。大きな活動としては、三年の夏休みにサイエンスタワーハイに挑戦したことです。結果を得るために何度も実験を繰り返し、それを自分の言葉で発表できた経験は、私の将来の目標に近づく大きな自信になりました。そして実際に入試の提出書類や面接という形で生かすことができました。みなさんも好きなことでいいので、何かに挑戦してみてください。「自分は高校生活でこれを頑張った!」と思えるものがあるだけで自信になります。自分はA Oや推薦を受けないから関係ないと思っても、私がそうだったように、入試方式が変わったり、志望校が変わることもあるかもしれません。たとえ入試に使わなかったとしても、何かを頑張ったと

いう経験は、必ず受験期やその先の将来に、自分の自信になるはずです。そして、人前に出て話す機会があれば積極的に行なってください。もちろん、先生方の面接指導のおかげではありませんが、私は中学生の頃から人前に出て話す機会がよくあったこともあり、本番の面接ではあまり緊張せず、練習通りに行うことができました。A O・推薦以外に、一般入試の二次試験などでも面接が行われることがあるので、人前で話す癖をつけておくことを強くオススメします。以上が私が今までに行なっておいて良かったことです。

逆に、小論文と口頭試問では、行っておけば良かったと思うことがいくつありました。小論文は、私の受けた学部では専門的な内容が出題されたため、専門分野に関する本を読んでもおけば、小論文を書く際の引き出しが増え、本番でももっと余裕を持つことができたと思います。また、口頭試問の準備では、日頃の勉強不足を補うことが必要で、そのために面接や小論文対策の時間や、それ以外の大切な受験期の時間の多くを使うことになりました。やはり、日頃から継続して勉強することが重要だったと痛感しました。

私の経験は皆さんに伝わりましたか? ぜひ実践してみてください。私は、今まで行ってきた活動を思いきりアピールして入試に生かすことができたので、A O入試という選択をして正解だったと思っています。みなさんにはまだ時間があるので、自分に合った入試方式を見極め、高校生活を最大限に生かして欲しいと思っています。

最後に、学付は「ONE TEAM」です。私も応援しています。

「感謝」

熊本大学 法学部 グローバルリーダーコース

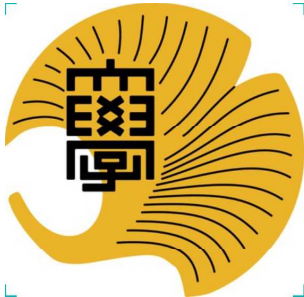
(A O入試)

木山中学校出身 R・T

「熊大のA O試験に挑戦してみたら？」 7月に行われる三者面談に向けて進路の話をしていた最中のことだった。突然母から出たこの言葉は私に衝撃を与えた。ものの数分前に一般試験を受けることで決定をしていたというのに。「なんだろう、お母さんはあなたなら、あなたの経験ならばA O試験で受かる気がする。」

母は続けた。私はすぐに返事を返すことができなかった。なぜなら、私も一度考えたことがあるからだ。グローバルリーダーコースは他の人よりも外国に触れる機会が多く、留学生と同じ棟で主な大学生活を送ることができる点がとても魅力的だった。そしてそこはA O試験合格者のみしか入ることができないのだった。だが、試験に英語面接やグループワークが含まれているということ、もし不合格だった場合みなよりA O試験に掛けた時間の分遅れをとることが理由で諦めていた。しかし、母の強い思いもあり数日間考えた。A O試験にはほかの人がしていないような経験をしてきた人が大勢いる。それに戦う武器を私も持っているのではないかと。私は中学の頃熊本大地震を経験し、ボランティアを行っていた。それは形は変われど高校でも続けた。キャンプの実行委員や仮設団地の炊き出しを中心に行った。また、留学の経験もあり海外でのコミュニケーションの難しさを知ったりと自分の強みを見つけてことができ、A O試験を決意した。半分

賭けだった。それでも本気で準備を進めた。初めてのことに少々戸惑いながらも一次合格をいただき、いよいよ二次試験前日、母から言われた言葉が印象的だった。「あなたが今まで出会ってきた人に感謝を伝える気持ちで望みなさい。あなたは一人で生きてきたんじゃない、多くの人に支えられて今ここにいるの。あなたがたくさんの経験ができたのもみんなのおかげだよ。」と。その時どこからともなく自身が湧いてきた。綺麗な言葉で飾るよりも自分の言葉で伝えようと。合格できた今、沢山のの人に感謝をしたい。志望理由書の添削や面接やグループワークの練習を空いている時間に何度も付き合っていたいたりと丁寧に向き合っていたいた先生。悩みを真摯に聞いてくれた友達。そして何よりも母に一番感謝を伝えたい。母があの時受けようと言ってくれなかったら、私はどうなっていたのだろう。誰よりも私を信じてくれて本当にありがとう。後輩の皆さんはいま進路で悩んでいる人が多いだろう。勉強ができる、スポーツが得意、経験豊富など誰にも負けない強みを持つことはとても素晴らしいことだと思う。A O試験では自分が活躍している場所で何を思い、何を感じ、これからどうしていきたいか、その気持ちを最大限に伝えて欲しい。そして何より、いま自分が在るのは支えてくれる人がいるからだと感じの気持ちを持って過ごして欲しい。



「未来の受験生へ向けて」

熊本大学 理学部 グローバルリーダーコース

(AO入試)

龍田中学校出身 N・I

私は熊本大学にAO入試という方法で合格することができました。これから私が受験を通して得た自分なりのアドバイスを皆さんにお伝えします。

熊大のグローバルリーダーコースは英語面接、グループディスカッション、口述審査、学部によっては筆記試験などがあります。そのほかにも、一次試験で志望理由書や活動履歴報告書を提出しなければなりません。さらに、出願から受験まで9月から10月とほかの入試に比べて早い時期に行われ、早めの準備や対策をする必要があります。しかし、私がこの入試を受けようと思ったのは3年の高校総体後でした。ほかの受験者に比べてスタートの時点でかなり遅れを取っていたと思います。特に、一・二年時に海外留学や、ボランティア活動をあまりしていなかったことは本当に後悔しました。私は3年の夏に活動に参加しましたが、正直、勉強に対する焦りを大きくしてしまっただけだと思います。3年の夏は学力をつけるための大切な時期なので、皆さんには時間にゆとりのある今、受験を見据えて行動を起こしてほしいです。

反対に、AOのための準備としてよかったこともありまます。研究室を調べることです。特に理系の方にお勧めします。事前に研究室について調べて、オープンキャンパスなどで研究室を訪ねてみてください。実際に大学生や教授から話を聞くことは貴重な体験です。自分が大学で学びたいことが

明確になり、モチベーションも上がります。また、新聞の切り抜きと夢ノートもAO入試では必須です。実際、面接で専門的な分野の質問が出た時、自分がそれらから蓄えていた知識がとても役に立ちました。早いうちに取り掛かって損はないとおもいます。

受験に向けての準備は決して楽ではありません。毎日志望理由書の添削や、面接の練習に追われ、何度もつらくなりました。いろんな不安に押しつぶされそうにもなりました。そんな中私は、私よりも熱心な先生方のご指導や、近くで応援してくれる友達に何よりも助けられました。今は、これまで諦めないで挑戦してよかったと心の底から思っています。

どの入試においても最後まで大きく左右するのは気持ちの強さです。受験当日だけでなく自信をもって挑めるかが変わってきます。そのためにも、繰り返しになりますが、早めの対策で自信をつけてもらいたいです。

皆さんが高校生活も受験も笑顔で終わられることを願っています。がんばれ！



熊本大学
Kumamoto University



「受験の記録」

熊本県立大学 総合管理学部 総合管理学科

(A O入試)

京都市立桃陵中学校出身 M・M

私は、熊本県立大学の総合管理学部にA O入試で合格しました。A O入試は評定が関係なく、その大学に進学したいという気持ちがあれば誰でも出願することができます。私自身、三年生になるまでA O入試で受験をしようとは思っておらず、心持としては、少しでもチャンスが増えればいいというものでした。しかし、今思えばその考えは甘いものだったとわかります。なぜなら、入試への準備は想像以上に辛いものだったからです。出願が8月後半とほかの大学と比べると早めであるので、夏休み前から取り組みはじめました。出願までひと月以上あったので、全然余裕だろうと思っていたのに、提出するたびに書き直したほうがいいと言われ、時間はあつという間に過ぎていきました。夏休みが終わりに近づいても完成しない志望理由書に焦り、イライラが募りました。先生は忙しい中で私のためにわざわざ時間をつくってくれていると頭ではわかっているのに、その時期は先生がとても嫌いでした。もちろん今は感謝の念しかありません。無事書類を完成させた後は自分としては楽でした。ちゃんと自分の中で未来について考えることができたからです。

ここまで怖がらせるようなことばかり書いてきましたが、ただA O入試が怖いことを言いたいだけではありません。A O入試は、必ずどこかで自分と改めて向き合わなければいけません。いままでの考えがどれだけ稚拙であるかを思い知る

こととなるかもしれません。ですが、決して諦めないでほしいです。必ずとは言えませんが、A O入試は努力の量の多い人が受かります。周りは自分と同じレベルかそれ以上だと思つてください。自分が努力を怠つた分だけ周りに引き離されます。逆に言えば、頑張つた分だけ周りを引き離せません。A O入試は、事前に準備ができるので、大学からすれば準備量は一目瞭然です。自分が納得できる以上の準備をしたら、それまでの努力を信じて、堂々と試験に臨んでください。

最後に、まだ進路が確定していない後輩の皆さんに伝えておきたいことがあります。それは、授業態度を今一度見直してもらいたいです。私のクラスに限ったことではありませんが、1・2年のときの評定が足を引っ張つて、推薦が受けられない人が何人もいました。それはもう自業自得としか言えません。進路は案外簡単に変わります。備えあれば患いなし、自分の首を絞めるような真似はしないでください。

皆さんの希望が叶うことを願っています。


 熊本県立大学

「合格から学んだこと」

横浜国立大学 経営学部

(推薦 I・センターを課さない推薦)

出水中学校出身 R・N

私は、横浜国立大学に公募推薦で合格し、入学することができました。高校3年生になって決めた進路ですが、この大学に行きたいという思いは誰よりも強かったと思っっています。正直、私自身推薦入試を受けるとは思っていないく、両親から勧められたのがきっかけでした。私は様々な人にお世話になり、そのおかげで合格したいって過言ではないほど助けられました。その中で特に大事にして欲しいと思うことを、これから受験生になる皆さんにお伝えしたいと思いません。

私が推薦入試をいただいて一番に、勉強する時間が無いと思いました。そして、この入試方法は私が考えていたよりメンタルがやられました。ここでアドバイスしておきたいのは自分に武器がないと思っている人は先生たちに頼りまくることです(笑)。実際に私は学校の先生と塾の先生そして、クラスメイトの友達も合わせて10人くらいにお世話になっていました。志望理由書と小論文、面接の三つが試験内容でした。まず、志望理由書では私が持っている全ての強みを書き出し、先生にも助言をもらいながら作成しました。書き直した回数は15回以上でした。ギリギリで出願したのもっと早めに書き始めたらよかったなと反省しました。最も時間をかけたのは小論文と面接で、小論文は10回以上、面接も10回以上しました。しかし、経営学部の小論文過去問があま

りなく他の学部で問題を解いていました。そして、面接では面接用のノートを作り、これも先生のアドバイスをもらいながら伝えたいことをメモして本番で伝えられるようにしていました。

よく、推薦入試を運しだいとおっしゃる人もいますが、私は決してそうではないと思っっています。この入試方法も努力をすればするほど結果はついてくるものです。中途半端に受けてはいけません。少し厳しい言い方になるかもしれませんが、勉強の方が心配なら最初から受けない方がいいと思います。私の場合は浪人してもいいという覚悟で臨んでいました。後悔しないように、全力で行動してください。

最後に後輩の皆さんに伝えたいのは、人とのつながりを大切にしてほしいということです。常につながりをお願いすることで思いがけないアドバイスや自分の強みとなるものを発見したりします。しかし、結局は自分の力で頑張らなくてはなりません。他力本願にならずにしっかりと頑張ってください。応援しています。

「夢への第一歩」

山口大学 教育学部 幼児教育コース

(推薦 I・センターを課さない推薦)

力中学校出身 C・F

「山口大学に行きたい」そう思い始めたのは、高校二年生のオープンキャンパスに参加したことがきっかけでした。

私は幼稚園教諭になりたいという夢がありました。そのため、免許が取得できる大学への進学を考えていました。幼稚園教諭が免許を取得出来るいくつかの大学を調べ、高校一年生の頃から、複数の大学のオープンキャンパスに参加しました。高校二年生の時に、初めて山口大学のオープンキャンパスに参加して、大学の雰囲気や幼児教育コースの活動を体験したことで、絶対にこの大学に行きたいと強く思うようになりました。そして、高校三年のオープンキャンパスでは、大学の先生と話すことの出来るいい機会だと思い、質問したいことを考えて参加しました。学部説明会では聞くことの出来ない話や実際に受験した大学生と話をすることによって、他の人とは違う情報を聞くことができました。

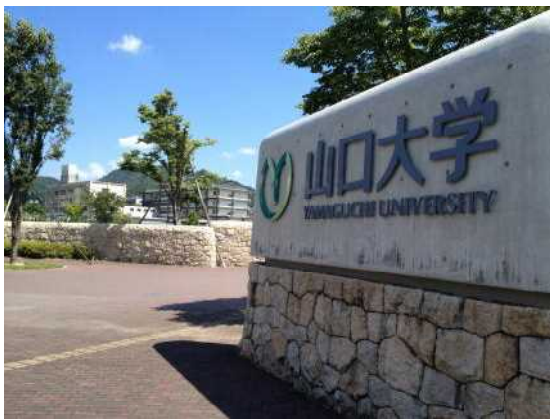
その後の夏休みから推薦入試の準備に取り組みました。毎日志望理由を考え、昼休みや放課後、休日を利用して志望理由書や小論文、面接の練習を先生方に指導していただきました。最も大変だったことは、志望理由書の作成でした。推薦入試を受けるからには、どうして山口大学なのか、幼稚園教諭になりたききっかけは何か、今までの過程を思い出し、深く考えました。また、私は高校一、二年生の時からボランティアやインターシップなどの野外活動に積極的に参加して

いたため、その事について志望理由書に書くことができました。

また、マイペースな私にとつて、先生方や友達、家族の存在やサポートがとても大きかったです。周りの人たちの支えがあったからこそ、合格をつかみ取ることができたと思います。多くの先生方に志望理由書や小論文の添削をしていただきました。先生方は、自分の昼休み時間を割いてまで私の小論文や面接指導をして下さいました。また、周りの友達は面接の相手をしてくれたり、アドバイスをしてくれました。その結果、私は自信を持って、受験に臨むことができました。

これから受験する皆さんに伝えたいことは、自分が興味を持った学校のオープンキャンパスに出来るだけ行くこと、一年生の時から積極的にボランティアなどの校外活動に参加することです。

自分の目標に向かって、諦めずに頑張ってください。きっと自分の夢に近づけます。



「後輩の皆さんに伝えたいこと」

熊本大学 文学部 総合人間学科

(推薦I・センターを課さない推薦)

熊本大学教育学部附属中学校出身 Y・A

私はセンターを課さない推薦入試を利用して、第一志望の大学に合格しました。私が志望校を決定したのは高校三年生になってからでした。自分の得意科目は英語だったので、その得意科目を最大限に生かせるようにとそれまでは私立大学を志望していました。しかし、親と何度も話し合ったり先生と面談をするうちに熊本大学文学部総合人間学科が自分の学びたいことに一番合っていると、志望校を変更しました。そして、チャンスを増やすために推薦入試に挑戦することを決めました。

私が受験した推薦入試は、志望理由書、小論文、面接で可否が決まるものでした。担当の先生がほぼ毎日のように小論文の添削をしてくださったため、最初は全く書けなかったのですが回数を重ねるうちにだんだん書けるようになってきました。小論文と面接の対策で一番重要なことは、数を重ねることだと思います。出来ないからと言って挫折するのはなく、何度も何度も練習をして自信をつけることが大切です。そして、もしも推薦入試を少しでも考えているならば、課外活動に力を入れておくことをおすすめします。私は志望校こそ漠然としていたものの、もし推薦入試を受けることになっても自信を持って挑戦できるように課外活動に力を入れていました。異文化交流に興味があったため、自分の視野や能力を伸ばすために高校一年生の頃からボランティア活動や熊本市の

青少年交流事業に参加したり英語検定だけでなく韓国語能力試験を受けたりしました。今回合格を掴み取る事ができたのは積極的に課外活動を行っていたおかげだと思っています。また、志望校に合格するためには勉強はもちろんですが情報収集や行動力が必要だと思います。1年生の頃から大学の説明会や県外の大学のオープンキャンパスに参加しました。そのおかげで志望校選択の幅を広げることができました。

推薦入試を受けるには、覚悟が必要です。一般入試に絞っている他の受験生達が着実に学力をつけている時期に、志望理由書作成や小論文と面接の対策に時間を割かなければなりません。私自身、毎日とても焦りを感じました。しかし、周りの人や友達が励ましてくれたおかげでどんなに辛くても最後まで頑張り抜くことができました。私は頑張っているクラスメイトの姿を見るだけで自分も頑張ろうという気持ちになりました。「受験は団体戦」という言葉をよく耳にしますが、本当にその通りだなと実感しました。これから受験を迎える皆さん、時には逃げ出したくなる時もあるかもしれませんが、自分の力を信じてコツコツ頑張れば大丈夫です。応援しています！



「掴んだ合格」

熊本大学 教育学部 小学校教員養成課程

(推薦Ⅱ・センターを課す推薦)

龍田中学校出身 H・M

私は、センター試験を課す推薦入試で合格したので、センター試験に向けて取り組んだことと、面接などについて書こうと思います。この入試を選択肢に入れている人達の参考にすれば幸いです。

受験勉強で大切なことは、目標をもち、おおまかな計画を立てて勉強することだと思います。模試や、定期テストを受ける時も、ただ受けるのではなく、目標を立ててそのための計画を立てて実行してみるといいと思います。そして、ここで大事なのが、目標を高く立てすぎたり、計画を詰め、厳密にしすぎたりしないということです。計画を実行し、目標を達成することができたという自分の成功体験が、次の目標を立てることや、達成へのモチベーションにつながると思います。私はこのやり方で、徐々に模試や定期テストの点数を伸ばすことができたので、ためしてみてください。

ここまでは、受験勉強一般について書きましたが、ここからはセンター試験を課す推薦入試について書きたいと思います。この入試方式は、センター試験の点数と、調査書、志望理由書、面接などから評価する入試方式です。私は、部活動は最後まで続けましたが、生徒会、キャプテン、ボランティア、イベント参加など、目立つことは何もしておらず、客観的に見ればいわゆるモブキャラでした。何の強みもない自分が、推薦入試で合格することができるのか、とても不安でし

た。しかし、過去の実績がなくても、自分の信念と意思を志望理由書や面接で伝えることができれば合格できるという、先生や周りの人達からの言葉を信じて、諦めずに対策を続けました。そして面接当日は、自信を持ってハキハキと自分の思いを伝えることができ、無事、合格することができました。この入試方式で受験しようとしたとき、自分に実績がなくても、自分を信じて、諦めずにセンター試験と面接、志望理由書の対策のどちらも頑張ってください。

最後に、私が受験勉強で辛いときにいつも考えていたことを紹介します。それは、この受験が終わったら何しよう、どれだけ楽しいだろう、と想像することです。私はこれで大学に受かりたい！というモチベーションを上げていました(笑)。人それぞれだと思いますが、モチベーションを上げる方法を見つけるといいと思います。

受験勉強はとても大変ですが、応援してくださいすべての人への感謝を忘れずに頑張ってください。皆さんが志望校に合格するように心から祈っています。

「受験を終えた私から皆さんへ」

筑波大学 体育専門学群

(一般入試 前期日程)

熊本市立錦ヶ丘中学校出身 M・M
これから受験を迎える皆さんへ、私の経験を交えながら助言をしていきたいと思えます。まず皆さんにお伝えしたいこ



とは、「人は慣れる」ということです。皆さんの中には、先輩やネットから得た「受験期は1日〇時間勉強」という情報に怖気づいている人もいるでしょう。しかし大丈夫。やってみれば、意外とできます。私も、7時半からの朝課外に始まり、時々分までの夕課外で終わる時間割をどうかしていると思っていましたし、初めはともきつかったです。ですが、2週間耐えたらそれが普通になりました。人は慣れてしまいます。当時それを知らなかった私は慣れるまでの間途方に暮れていましたが、きついのは初めだけとわかっていれば少しは気持ち楽になって頑張れるのではないかと思います。ぜひ頭に入れておいてください。

そしてここからは、十月の最後の大会が終わってからや々と受験生生活をスタートさせた私から、受験生になる前におくべきだと思ふことをお伝えします。まず、志望校は少しでも早く決めてしまってください。というよりも、大学については少しでも早く調べてください。目標は明確な方が良いでしょう。志望校が決まっていなくても、大学をいくつか調べた上で決められないというのと何も調べておらずやりたいことも曖昧というのではわけが違います。大学、学部、エリア、なんでもいいのでこだわりを決めて、それをもとにたくさん調べましょう。調べたらわかりますが、大学は、たぶん無限に存在します。そんな大学調べに受験期の大事な時間を取られてしまうのはもったいないですし、ゴールの方向だけでも見えている方が勉強も捗ります。

次に、特に部活をぎりぎりまで頑張りたいという皆さんへ、部活中心の中でもこれだけはしておくべきだと思う勉強

を2つお伝えします。まず、定期テスト。私は負けず嫌い故に順位が出る定期テストは頑張っていました。定期テスト、つまり教科書の内容を網羅できればセンター試験の数社理は解けます。さて、しかし、国語と英語はそうはいきません。この2教科だけは、教科書の理解度と過去問の点数が比列しません。そこでしておくべきこと2つ目が、国英の文法と単語。受験には必須です。3年の夏休みにこれらを詰め込んだ私は、1・2年次の自分を恨みました。これを読んだ皆さんはどうか、1日でも早く文法と単語を覚え始めてください。

さて、何故私がこの合格体験記に受験生になる前にすることについて多く書いたかというと、それが今の皆さんにとっても受験期の皆さんにとっても1番大切なことだと思つたからです。私は十月から本格的に受験勉強を始めた訳ですが、何も特別なことはしていません。私の受験勉強は、学校での授業と課外、それと自宅での過去問演習だけです。使った教材も学校で配布されたものだけです。今振り返ってみると、これで受験を乗り越えられたのは受験生になる前の準備があつたからだと思ひます。土台作りが受験を左右すると言つても過言ではないでしょう。そして、それをするのは受験期に突入してからの皆さんではありません。今これを読んでる皆さんです。特にスタートが遅くなるだろうという自覚がある人は、今の少しの頑張りでこれからの自分を楽にしてあげてください。それでは、1人でも多くの後輩が輝かしい進路へ向かうことを願っています。

「一年前の私」

山形大学 理学部 理学科

(一般入試 前期日程)

楠中学校出身 E・I

受験を終えて一年間を振り返ってみると、あつという間違ったなという感想がまず浮かびます。本当に大変な時期は一瞬で過ぎ去りました。だから、一年前の私に手紙を書くことすれば次のようなことを書くと思います。

最初に、前に述べたようにきつい時期はほんの僅かな時間でした。前にも述べた通り、このため、これから何をすべきかを考えたときに自分にとって一番ハードなスケジュールを立ててください。そしてただ計画をたてることに終わらずどう徹底的にそれを実現させるかを考えてください。一年前の私は、受験勉強とは真夜中まで勉強することなど、とにかく「長く勉強することだ」と思っていました。それは違います。私の場合、夜遅くなるほど疲れが蓄積して集中できず、結局寝落ちしてしまうことも度々ありました。勉強時間をひたすら長くしようと頑張るより元気な時にいかによりたくさん勉強できるか、が重要です。(ちなみににはやく時間が過ぎて欲しいと思ったら集中することに越したことはありません。本当に時間はやく過ぎます。)計画を実現させるために、家では誘惑に負けてしまう人は夕課外が終わったあとも学校の自習室で勉強する、朝早く学校に来て勉強するなど受験生でなかったら絶対しないようなことをして工夫してください。計画は徹底的に実現させる。ハードなスケジュールとはそういうことです。

意志の力が弱くて計画を実行できない、というときにオススメなのは自分と「約束」することです。何時まで学校で勉強すると自分に約束してそれを守る。この際必要のはたひとつ、自分との約束を絶対に破らないという意志だけです。自分を大切にするならば約束を破って自分を裏切らないでください。そして受験生活の結果を引き受けるのは自分ですから自分を大切にしてください。

受験は、得意科目がものをいいます。本番まで一年もないのですから、いままでずっと苦手だった科目が急に得意になることはあまりないでしょう。点数の伸びは期待できませんからあせらないで基礎の基礎から勉強してください。しかしそのときすでに得意だった人の点数に追いつくのは難しいでしょう。一番伸びしろがあるのは得意でも苦手でもない科目かもしれません。また、これは強調しておきたいことです。二次試験に得意科目があるかは非常に重要です。これから大学を調べる時間はどんどんなくなります。センター試験で思い通りに点数が取れる人はあまりいなかったように思います。いまのうちに現実的に入れそうな大学を入学後のシラバスも含め調べてください。偏差値を下げたとしても自分にぴったりの大学はきっとみつかります。また、大学に合格した時のじぶんの住まいにも気を付けてください。大学が遠いほど行き帰りで費用がかかります。寮は安いことが多いですが(そうでないことも)大学から遠い、家具がついてないなど不便なことも多かったです。ただ、お金について考えるのは大切ですが安いからという理由だけで大学を選ぶと後悔すると思います。保護者の人とよく話し合ってください。

自分にはないと思っていた選択肢があるかもしれないしその逆もまた然りです。

最後に、受験を恐れたり焦ったりする必要はありません。自らがやらねばならないことをするだけです。大学は自分で決めて自分で行くのだということを忘れないでください。

「埼玉大学への合格体験記」

埼玉大学 教養学部 教養学科

(一般入試 前期日程)

竜南中学校出身 K・H

受験勉強はとてつもなく長く感じられますが、「受験」はあつという間に終わります。少しでも皆さんの力になれるよう、自分の経験から学んだことをいくつか紹介します。

勉強面で言うと、私はこの一年英語に一番力を入れました。というのも、二次試験の科目が英語だけであるにも関わらず、英語が一番苦手な教科だったからです。

そこでまず取り組んだのが、英単語を定着させることです。授業で長文の解説を聞きながら、意味を知らなかった単語にチェックをいれておき、家に帰ってから別のノートにオレンジのペンで書き写す。ついでに電子辞書の音声機能を使って音を確認し、声に出しながら発音とアクセントもメモしておく。しばらく経ったら赤シートで隠して復習。これを繰り返しているうちに、問題を解くとき知っている単語が増えていきました。

また、長文を読むときの解釈や文法問題でつまずいた一文を抜き出した、文法ノートも作りしました。書き写すときに自

分が理解できなかった部分をオレンジで書いておき、赤シートで隠せるようにすると、自作の穴埋め問題になります。あとは、普段聴く音楽を全部英語の歌にして勉強のモチベーションを上げていました。

これらの方法が絶対にいい、ということはありません。いろいろと試して、一番効果が出る勉強法を見つけてみてください。

精神面でお伝えしたいことは、「努力は報われないことの方が多けれど、思っていたのとは違う形で報われることがある」ということです。私は他の大学のAO入試と推薦入試も受験しましたが、どちらも不合格でした。勉強時間を削って対策に相当な時間をかけていただけに、かなりショックを受けました。自分の小ささは、自分が一番よくわかっているものです。「受けない方がよかったのでは」ともやもやする日々が続き、やっと「あれがあつたから頑張れたのか」と思えたのは、前期日程の合格がわかった日でした。推薦が終わって志望校を変えてからも、「この大学に行く」という強い気持ちはずっと忘れずに勉強できていたことに気づいたので。そしてそれは、ひたすら自分と向き合ってたわかった本当に自分が学びたいものに対する熱意や、AO・推薦の期間中支えて下さった先生方と応援してくれた家族、友達への感謝の思いなどが、原動力になっていたからだとということにも気づきました。

受験期間は苦しいことばかりですが、全てが繋がっていたのだとわかる日が来ます。悔いが残らないように、最後まで自分を信じて頑張ってください。

「最後まで自分を信じて」

山口大学 工学部 社会建設工学科

(一般入試 前期日程)

龍田中学校出身 R・M

僕はセンター試験までは、教科毎の具体的な弱点対策はしていたものの、目標の点数設定もなく、ただ「〇〇大学に行きたい」という漠然とした志望動機のもと日々過ごしていました。センター前の数々の模試ではいつまで経っても点数が伸び悩み、本番二週間前になって漸くその現実にも焦りを感じ始めたものの、心の中では「どうせ模試よりも本番の方が簡単だから、自己最高点を取れる」と高を括っていました。全力を注ぎこんだつもりでしたが結果は自己最低点。全てに於いて今までの受験に対する自分の姿勢や態度を反省した次第です。国公立受験はもう無理だと思い私立合格を目指して勉強を始めた頃の最終三者面接。松尾先生から「山口大はどうか？」と受験を勧められました。しかし山口大はD判定。予備校模試に至ってはEの烙印。僕が受けた山口大工学部の三学科の二次試験は数学のみの受験ではあるがセンター試験の結果を踏まえて僕の場合、七割五分から八割の得点を求められます。山口大は初めて出てきたキーワード。予想もしなかった展開だが「国公立は明らかに無理だろう。私立を頑張ろう・・・。」

しかし、希望した私立には全く縁が無く正に崖っぷち状態。浪人覚悟で最後の砦となった山口大学受験を決意。ここからは数IIIが不要だった為、課外も受講しておらず知識もほぼ

ありませんでした。山口大を受ける事になってからの勉強は主に数IIIが中心でした。一日10時間の勉強の内、数IIIに費やした時間は八割以上、そして何より私に数IIIの特訓をしてくれたのが数学の得意な同級生です。

友達は毎日私に付きっきりで校内のラウンジで数IIIを教えてください、解らないことは何でも全部聞き、全てを理解するように心掛けました。学習塾にも通っていましたが、塾に行くよりも学校の門が閉まるまで一緒に勉強してくれた友達に感謝です。おかげで弱点を克服することができ、二次試験の数IIIに関してはほぼ満点の出来だったと思います。試験のたった一点が全てを左右します。学付の三年間はその「あと一点」を取りに行くための努力の三年間です。学付には素晴らしい環境で授業をして下さる先生方がいらっしやいます。いつでも一緒に勉強してくれる友達がいます。後輩の皆さん、あなたの周りにも良き友達は必ずいます。最後まで絶対に諦めてはいけません。不可能はありません。

僕の高校生活、そして受験に関わって下さった全ての方々には感謝申し上げます。



「受験を終えて」

佐賀大学 理工学部 理工学科

(一般入試 前期日程)

武蔵ヶ丘中学校出身 M・N

私が受験した佐賀大学では、一般入試での「英語外部検定試験」の利用、そして「特色加算」が導入されています。これが私の大学を決めた理由の1つです。そのことについてお話ししたいと思います。

① 「英語外部検定試験」について

私が受験した佐賀大学では、一般入試(前期日程及び後期日程)において、英検、TEAP、GTEC、TOEFL IBTの4つのうちいずれか1つを利用することが出来ます。私が今回利用した英検を例におおまかに紹介すると、英検のスコアが大学入試センター試験(英語)の得点に換算し(大学によっては二次試験の英語の得点に換算されることも)、センター試験の成績とみなして合否判定に利用出来る、というものです。

英検のスコアが2000以上だと、センター試験の英語の点数が7割以上相当とみなされます。英語外部検定試験の利用はとてもオススメです!英検ならば2級以上を取った方が良いでしょう。(確実なのは準1です。)ちなみに、私は英語が苦手で、センター試験では思うように取れませんでした。けれども2年生の時にぎりぎりであった英検のおかげで、今回の合格を勝ち取ったといっても過言ではありません。

② 「特色加算」について

これは私が少し後悔していることです。佐賀大学には理工

学部、農学部だけに特色加算制度というものが有り、私はこの制度を知ってはいたのですが、軽く考え、申請しませんでした。重要さに気づいたのは、受験の申込みが完了したとき。慌てて追加申込をしようとしたのですが、時すでに遅し。結局、特色加算点は0点となってしまいました。ここで、特色加算点について少しだけ説明します。特色加算制度(佐賀大学の場合)というのは、センター試験、個別試験とは別に、書類審査として加算枠を設けられます。具体的には、高校入学以降に取り組んだ主体的な活動や実績(課題研究、部活動や生徒会活動、ボランティア、海外留学経験など)を踏まえた申請内容が評価の対象とされます。皆さんは、そのチャンスを逃さず、存分に利用して下さい!

つまり、私が伝えたいのは、募集要項は隅々まで読みましょう!ということ。もちろん個別試験(私の場合は数学と物理)も頑張りました。そして、勉強する時と休む時のメリハリをつけ、復習は自力で解答を完璧に書けるまで繰り返し解くことが重要だと思います。きついときは休んで下さい。長くなりましたが、少しでも私の体験記が皆さんの参考になれば幸いです。応援しています!

その **サガ**、**サガ** 大。

「先輩に伝えたいこと」

佐賀大学 理工学部 理工学科

(一般入試 前期日程)

合志中学校出身 H・W

合格体験記ということで皆さんの役に立てるかどうかわかりませんが私が思ったことをアドバイスとして四つを記します。国語も苦手で小論文指導も受けてないので読みにくい文書かもしれませんが、ご了承ください。

一つ目は課外(特演)についてです。勉強できない人にすすめるのはまず課外に参加することです。分らないから、苦手だからという理由で参加しても意味がないと考えるのはどうしようもないと思います。参加した人は最後まで参加してください。そうしないと周りの人のモチベーションが下がります。以前、うろ覚えではありますが先生に「学校は授業、宿題、課外で完成するように考えている」と言われました。私は課外は演習をする場所と認識しています。宿題はじっくり考えて、課外は時間を区切ってというふうに行っていました。これは余談かもしれませんが早朝や長期休暇中の時間管理にも良いと思っています。朝から遅く起きて授業に参加したり、長期休暇をだらだらと過ごしたりすることはなくならずです。

二つ目は問題集、参考書についてです。個人的には学校で使用しているもので十分だと思います。私は塾にも入っていませんし、参考書(赤本は除く)は一冊買ったかなといったところではあります。何冊もの問題集をといても全てを理解できるわけではないと思います。量をこなすことも大切ですが、分

からないことだらけで終わっては意味がない。「量より質」を大切にしてほしいと思います。理解できるまで繰り返すことが大切だと思います。

三つ目は学校のシステムと言っているのか分かりませんが利用できるものは最大限利用してください。課外のことや先生や友達に質問することなどです。教材が難しいだったり、他の参考書が見たいというかたは図書室にも本はあります。英語に関しては英語検定やTOEFLの本だけでなく長文読解についての本もありますし、英語に限らず様々な教科や小論文、面接についての本があります。(これも余談ですが数学が苦手なかたは結城浩さんの『数学ガール』がおすすです。数IIIの内容も少し入りませんが数学の解法をただ単に覚えるのではなく根本が理解できると思います。)

最後に受験に必要なのは忍耐力だと思います。忍耐力は毎日課外に参加する、授業中に寝ない、苦手な教科に挑むなどです。よく学生が言う「明日やればいい」とかいつてサボり癖になるとなかなか直りません。学力を上げるとための最短経路はありません。少しずつの積み重ねが必要です。

良い知らせが皆さんのもとに届くことを願っています。



佐賀大学

SAGA UNIVERSITY

「受験を終えて」

長崎大学 多文化社会学部

(一般入試 前期日程)

北部中学校出身 H・I

大学受験を終え、私は無事に第1志望校に合格することができました。今までの受験勉強を振り返って、私がやって良かったと思うことを3つ紹介します。

1つ目は、志望校を早めに決めたことです。私はもともと海外に興味があり、大学でも英語や国際関係の勉強をしたいと思っていました。1年生の頃に自分の興味のある分野が学べる大学をたくさん調べて、2年生の頃に第一志望校を決定しました。自分のやりたいことや興味のあることが見つからないという人は、校外活動やボランティアに積極的に参加してみてください。たくさんの人に出会って様々な経験をすることで、自分のやりたいことや好きなことが見つかるはずです。私も、この学校のホームステイプログラムに参加したことが志望校を決定するきっかけとなりました。

2つ目は、目的をもって勉強する習慣を身につけたことです。小テストや定期テスト、模試などを振り返って、今の自分ができていないことや自分に足りていないものを確認しました。勉強中もそれを意識して、自分が今何のためにどういうことをどんなやり方でやっているのか認識することで、内容が頭に入りやすくなりました。1、2年生の頃はただ闇雲に勉強していた部分もあって、時間をかけても結果が得られないことがたくさんありましたが、目的をもって勉強のやり方や時間配分を考えることで効率よく勉強できるようになりました。

ました。

3つ目は、適度に息抜きをしたことです。私は家では全く勉強できなかったのですが、学校に残って自習したあとも塾で勉強していました。そのかわり、家に帰って寝るまでの間は自分の好きなことをしました。息抜きと睡眠時間を十分に取ることを考えたうえで、勉強時間を配分すると良いと思います。

センター試験が終わって二次試験対策に入ると、自分の中でつらい気持ちや苦しい気持ちが大きくなっていききました。進路が決まっている人たちが周りにふえていくなかで、二次試験の勉強に關して思うようにいかない部分もあったので、とても不安でした。それでも、毎日学校に来て一緒に頑張れる友達がいることは、私の中でも大きな支えでした。1人では絶対にできなかったと思います。自分の不安や悩みをさいてくれた友達や、たくさん声をかけてくださったり添削指導をしてくださった先生方には感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

受験が近づくにつれ、自分と向き合うことが多くなると思います。答えが出ないことがたくさんあるなかで、それでも前に進まなければいけないときもあると思いますが、周りには助けられる家族や友達、先生方がたくさんいます。周りに頼って、自分なりの納得のいく進路を見つけて、最後まで頑張ってください。応援しています。

長崎大学
NAGASAKI UNIVERSITY

「受験を終えて」

大分大学 理工学部 創生工学科 福祉メカトロニクス

(一般入試 前期日程)

帯山中学校出身 A・M

この合格体験記では、私の経験と後輩へのメッセージを綴りたいと思う。この合格体験記が少しでもあなたの参考になれば幸いだ。

まず、私が後悔していることは、二年生の時に勉強を疎かにしてしまったことだ。私は公立高校に落ち、この学校に入学したため、一年生の時は悔しさがあり、勉強に励んでいたが、二年生になると理系に進み、クラスに男子が増え、私語することが多くなり、授業が疎かになってしまった。いわゆる中だるみである。今思えば大事なのは二年生の時の勉強で、一年生の時の勉強は基礎なので、やろうと思えばいつでもできる。特に化学は二年生から始めるので、しっかりと授業をうけなければ、受験で苦しむことになる。実際、私を含め多くの人がセンターレベルの問題で頭を抱えていた。なにして早くにこしたことはない。

次に三年生の10月から11月である。私の成績は伸び悩んでいた。この時期になるとセンター試験も近いので、「焦り」が出てくる。周りのみんなもそうだった。そして、「自分のやり方は合っているのか」といった考えに陥る。しかし、こんなときも動じず自分のやり方を貫いた方が良い。そのため、三年生になる前に自分の方針を細かく決めておくが良い。上手くいかなかったら改善すれば良い。その繰り返しで自分に合った勉強法を早く見つけることが大切だ。

他に、私は塾に通っていたが、塾と学校の両立は上手くいかなかった。学校の復習、予習、塾の復習。たった3つのことだが、完璧にしようとする、一日では終わらない。だから、塾に入る前に考えておいた方が良い。この3つを消化しきれぬか。復習はとても大事だ。しかし、これを完璧にするのは難しい。私はもう一度同じ問題を解くのは億劫だった。また、ただ問題の解法を暗記して写しているだけで本物の復習ができていないのか不安だった。実際ただの「形だけ復習」だったかもしれない。これを疎かにしていた私は結局、10月から成績は伸びなかった。対してこれを完璧にこなしていた友人は成績を伸ばしていた。今考えてみると、復習はただの解き直しではなく弱点探しであると思う。したがって、これをやらずして成長はないと思う。

最後にこれから受験を控える皆さんにはぜひ高い目標をたててもらいたい。そして、覚悟を決めてその目標に見合った努力をしてベストを尽くしてほしい。



「素直になること。頑張ること。」

熊本大学 薬学部 創薬・生命薬科学科

(一般入試 前期日程)

鶴城中学校出身 K・H

私の学付のスタートは、3年前母と二人で参加した入学説明会です。その時に松野先生から言われた言葉が「今は本意でも、3年後卒業する時にはこの学校に来て良かったと皆さん言われます。」です。話を聞きながら「本当にそんな気持ちになるのかな。」と思ったことを覚えています。

また、入学前に学付の先輩である知人と話をし「受験に失敗した悔しい気持ちは忘れるな。楽しいと忘れちゃうけど、忘れなかった子はみんな頑張って大学受験に受かるから。自分のやる気しだいだよ」とアドバイスを受けました。

こうやって私の学付での高校生活が始まりました。高校生活はとても順調に始まり、充実した毎日を過ごしました。ただ勉強は1生のうちはあまり身をいれていませんでした。2年に進級する際に選抜クラスに残れないことを覚悟したくらいです。

「こりやまずい」と感じたのは1年生の後半からです。少しずつ自分なりに勉強をし、2年の前期には成績も安定してきました。そうすると、もっと欲が出てきました。そこで周囲を見回したとき、成績上位の友人は先生に積極的に質問に行き、アドバイスを受けたことをきちんとやっていました。自分に置き換え「わからないことは先生に聞こう。言われることを素直に聞いてやってみよう。」と思いました。学校の課題を真剣に取り組み、わからないことを先生に質問に行く

うちに、届かないと思っていた目標を射程に入れる位置にきていました。

実は、部活に悔いを残さないため3年生の総体終了まで夕方の特演は受講していません。後輩から「一希さん大丈夫？」と心配されましたが、悔いを残さず、すつきりと上手に気持ちを切り替えられたと思います。

センター試験までは、朝から晩まで勉強しました。ただ長時間の通学時間のため、体調管理で9時に切り上げ10時までは帰宅するようにしていました。それでも、センター試験は目標点数には届きませんでした。ただ、諦めなくなかったので、2次逆転を狙い熊大薬学部創薬・生命薬科学科に願しました。

先生たちの受験指導のなかで「前期をゴールにするな。後期まで走り抜ける気でやいなさい」と言われました。それで前期試験が終了したその足で学校に行き、手元のない過去問を解くため、古い赤本を借りました。結果として無駄になりよかったです。

今卒業にあたって、3年間良い時間を過ごしたと思います。松野先生に言われたとおり「学付に来て良かった」と思って卒業します。最後に贈る言葉としては、「素直にアドバイスを受け入れること」です。一人で乗り切るには苦しいです。先生をはじめとする周囲のアドバイスを素直に受け入れ頑張ってください。



「熊本大学・・・合格への道」

熊本大学 工学部 材料応用化学科

(一般入試 前期日程)

東部中学校出身 M・N

私は一、二年生では陸上部に所属しており、勉強については課題をこなす、授業を“聞いている”、ことをしていました。朝課外はとつていたけれど私的な感情に負けて約七割しか受けていませんでした。

さて、三年生になり部活を引退し、課外は朝と夕方の二回になりました。まず私は課外を全部取り、受けるようにしました。初めのころは何となく受けていた課外を三年の終りのころには、内容を完全に理解できるまで粘るようになりました。また、課外は遅刻することはあつたけど全て受けました。ここで私が一番大事だと思っていたことは、この「課外を休まない」「意地でも内容を理解する」、を両方やることです。少し深く言う为例えば、化学の反応速度式を課外で触れて、分からず納得できないときまず教科書で調べます。そしてら教科書にも疑問ができて、教科書が間違っているのではないかと疑います。そして先生にこの経緯を伝えて教えるを乞います。そうしたら、先生が分厚い本を参考にしてくれて、ほかの先生も来て下さり約二時間話し合いました。だれどこのとき解決できませんでした。その後一人で考えていた時にひらめき解決しました。(先生の負担は考えておらず友達に注意されました。そのため先生に謝罪したところ、大丈夫、質問していいよ、などと言って下さり、先生の偉大さを痛感しました。)

話は変わり、私は環境づくりをしていました。一つは黒板を綺麗にすることです。黒板が綺麗だとクラスの成績が上がるかと考えているからです。理由はわかりません。黒板は日直が消す決まりがあつたため、誰かの仕事を奪うことになり心が痛かったです。

偽善者という人もいたけど、綺麗に消してくれるひともいることに気づけて本当にうれしかったです。ちなみに私はチヨークの並べ方、間隔にこだわるところまでいきました

(笑)。結果、自分は黒板に愛着が生まれ、さらに授業に集中できてテストの点が上がっていききました。そして、次に掃除です。私は汚いよりきれいなほうが好きです。決まった時間でもより綺麗にする、もしくは、たとえ一人でも終わらせられるようにクイックルワイパーを買って持ってきて使いました。(バイトはしていなかったので自分のお金ではありませんん。)掃除は心の余裕をつくる大切なイベントでした。

最後に、私はこれらのような、たとえちよつとしたことでも“続ける”ことで勉強の習慣がつかえました。そして希望の大学に入れました。それゆえに、これらのことは熊大合格に繋がっていると思つています。



「マイペース真面目系な人の話」

熊本大学 法学部 法学科 法学・公共政策学コース

(一般入試 前期日程)

西合志南中学校出身 S・T

まずはじめに。私は硬い文章を書くことができません。他の方々が書くものよりはるかに参考になりません(断定)が、お役に立てたら嬉しいですよ。

話したいことが多すぎて収まりそうにないが、ここでは、「センターの勉強」「二次の勉強」「エピソードと自分なりのアドバイス」を話していきたい。(以下、だ・である調)

まずセンターの勉強だ。センター対策は学校側がみっちりテキストでやってくれるので特に自分で他のことはしなかった。特に国英。どうせ同じものなんて二度と出ない。余分にやらないこと。国語は古典単語文法、英語は単語とアクセントさえ自分でしとけば大丈夫。私は社会のセンター形式の問題がほんとに取れなかったので、暇さえあれば世界史の過去問を解いていた。世界史は短時間で解けるから、時間が空いたときにやるのがおすすめ。なんなら音楽聴きながら気楽にできちゃうからな。もちろん間違え直しも忘れずに。

次に二次の勉強だ。私は二次が国英だったので何をすればいいのかわからなかった。前半は学校での二次対策を主として、家では某スマホバトロワをする生活が続いた。が、しばらくして、熊大とレベルが近い千葉・岡山・首都大などの過去問を家で解いて添削してもらった(熊大の問題解いても二度と同じでないと考えたらやる気失せたから)。熊大は偏差値のわりに二次のレベルが無駄に高いので、明治

・青学などの難関私立の一癖ある問題も解くと非常に力になった。加えて、人生初のマイ英単語帳を作って暗記した。自分が受ける大学の過去問は、あくまで時間配分の把握、そして傾向をみるものとして使おう。過去問ばっかりより、某予備校の予想問題だとか、他大学の似た傾向の問題も解く方が、力が伸びると思うが・・・赤本だけにとらわれるなっていう意味。傾向を早いうちに知っておくことは、本番までの対策にとっても役立つ。

最後にエピソードとアドバイスを。私は危機感があっても行動に移せない人だった。センターのセルフ勉強も本番二週間前、二次セルフ勉強も二週間前からだった。だけど合格したのは、決して天才肌だとか、地頭が」というわけではない。それは、授業を真面目に受けてきたことだ。一度も休むことなく、一度も寝ることなく、一度も内職|すまん内職は大好きだ。授業で学んだことは必ず受験に直結する。そしてここだけの話、この先生分りにくいなと思ったら、無理に聞かず自分でまとめよう(これが正しい内職)。そして、定期考査はいかなる時も全力で挑もう。基礎の問題を問われているのだ、これで高得点取れなくてどうする。君たちは恥ずかしくないのか!その地道な頑張りが功を奏す。ふぁいていん。

長ったらしい文章を読んでくれてありがとう。今必死に頑張っていることは決して無駄にはならない。今目の前にあるものに全力で取り組もう。休みたい時は休んでいい。その後真面目に勉強するのなら。受験頑張ってください。

「合格体験記」(仮)

熊本大学 文学部 歴史学科

(一般入試 前期日程)

武蔵ヶ丘中学校出身 S・T

まず初めに私が皆さんに伝えたいことがあります。

私が書くのは「合格体験記」ではありません。正確には、一般的に想像される形の「合格体験記」ではありません。第二志望の大学への合格体験記に意味があるのか、そもそもこれは合格体験記なのか、何度考えても答えは出ません。何かを書けばいいのか、何を伝えればいいのかわからないままで書き始めました。正直、今もどのように結ぶのか少しも頭に浮かんでいません。まったく手探りの状態ですが、私は私なりの「合格体験記」を書いてみようと思います。

今振り返って改めて私の受験生生活でもっとも鍵となったのは志望校決定です。私が最終的に志望校を決めたのは十月の末でした。それまでの変遷は省略しますが、このときに私は地元国立大から東京の私大に志望校を変更しました。ここからが私の本当の受験生生活の始まりでした。しかしそれは決して辛いものではなく、むしろ私にとっては楽しい生活となりました。もちろん毎日良いことばかりではなく、落ち込む日や、泣き出したくなる日もありました。それでもそれら全てをひっくるめて楽しかったと言えます。それは、自分が本当に行きたい大学を志望校に決めて、そのために全力で頑張ることができたからです。

第一志望は東京の私大。そして国立大も受験する。これが最終的な私の目標でした。あのおとき志望校を変えていなかっ

たら今の合格さえもなかったかもしれないと本気で思っています。本当に行きたい大学のためだから勉強を頑張ることができました。さらに私は理数系の科目がとにかく苦手で、その勉強がかなりのストレスだったのですが、私大対策に切り替えたことで理数の勉強が最小限でよくなり、結果としてストレス少なく勉強を続けることができました。このようにストレスをできるだけ少なくすることは非常に大切です。これ以外にも家では妹や弟が私の分のお手伝いを代わってくれるなど、数えきれないほど家族には協力してもらいました。ストレスフリーな状態を作るには家族の協力が不可欠です。全面的に協力してくれた家族には感謝しかありません。

私が大切にしていたのは、自分に合った勉強法を生み出すこと、そして自分が今何をやっているのかを意識することです。前者の実行に有効なのが日頃の定期テストです。この期間に自分の癖や好み、気分の変化などを理解し、それに応じた計画を立てていくことで自分に適した勉強法を生み出すことができますと思います。受験生になってから確立させれば良い、と考える人もいるかもしれませんが、一朝一夕でできることではありません。時間があるうちに確立しておくことをおすすめします。そして後者を実行するために私が利用したのは、まさしくこの「合格体験記」です。勉強するときに、よく「私が合格体験記に書くなら何を書くだろう」と考えていました。そうすることで自分の目的が明確になったり、逆に方法を見直すきっかけになったりしました。こちらも活用してみてください。

ここまでいろいろ書きましたが、何より大切なのは「でき



「大丈夫」「できる」と思って過ごすと、とても毎日が過ごしやすくなります。そのことが勉強の質の向上やモチベーションの維持につながります。ぜひ皆さんも実践してみてください。

最後に皆さんに伝えたいのは、私は自分の受験生生活を後悔していない、ということ。これを伝えられたら、私がこの文章を書いた意味があると思います。皆さんが本当の意味での「合格体験記」を書けることを祈って、この「合格体験記」の結びとします。



「受験期を終えて」

熊本大学 教育学部 中学校教員養成課程 保健体育

(一般入試 前期日程)

帯山中学校出身 T・M

私が、第一志望に合格した理由は、一言でいうと「自分の目標」を早い段階から持っていたことだと思います。

私は中学生の頃から熊本で教師になりたいと考えていました。そこで地元である熊本大学の教育学部を受験しようと考えていました。これから、私が受験を早く見据えて勉強してきた中で良かったことをいくつか紹介します。

まずはセンター試験に向けての勉強についてです。私は陸上部に所属していました。高校総体が終わってすぐには、なかなか切り替えができません、何を勉強したらいいのだろうかという感じでした。そこで私が始めたのは、英単語と英熟語です。単語や熟語は早い段階で固めておくことで過去問演習の理解度が上がるので、問題演習の質が上がります。また短時間でできることなのでとても継続しやすいです。英語以外の国語と数学も基礎を早い段階に固め、とにかく演習を積むことが大切です。

次にセンター試験が終わってから二次試験までの期間の使い方についてです。なぜこのことを書いたかというと、私は二次試験で逆転合格をしたからです。私の受験した大学は二次試験の点数が高く、その中には面接の試験がありました。私は面接をしたことがなかったので試験後はすぐに練習に取り組みました。学校では担当の先生と毎日練習し、通っていた塾でも練習しました。練習の成果もあって、本番は、初め

て聞かれることでも、落ち着いて答えることができました。試験後だけでなく模試後には、気が抜けることがあると思いますが、そこでペースを落とさずに勉強することで合格に近づけることができると思います。

最後に、大学受験を振り返って私が失敗したと思うことを書きたいと思います。それは、不安な気持ちをため込んでしまったことです。私はこのせいで、試験本番で難しい問題に出会ったとき、一気に焦ってしまい試験中に集中が途切れてしまいました。なのでこれから受験を控えているみなさんは、心配なことがあったら先生や家族に相談したり友達と励まし合ったりして、不安を乗り越えてください。

これまで受験のことしか書きませんでした、一番は学校生活を楽しむことが大切です。勉強もしながら学校の行事も積極的に取り組んで、充実した高校生活を送ってください!!



「受験生活を振り返って」

熊本大学 教育学部 中学校教員養成課程 音楽

(一般入試 前期日程)

白川中学校出身 K・Y

皆さんこんにちは。今回は私が受験を通して頑張ったことや、後輩の皆さんへのアドバイスを1年生からの生活を振り返りながら話したいと思います。少しでも参考になれば幸いです。

まず、私の1年次を振り返ると、部活や遊んでばかりで、勉強は定期テストの前に詰め込んでいました。勉強へのモチベーションもなく、200番代には入らないように頑張ろうと思う程度でした。(笑)しかし、やはり勉強し、いい点数を取ると気持ちいもので、そこに気付き始めると少しずつ古典の予習をしたりして意識が高まったように思います。

2年次では、同じくらいの成績の友達とテストで競うようになり、授業でしっかりと理解できるように、これまで以上に授業を大切にするようになりました。テスト前は、とにかく問題演習をして知識を定着させていきました。

3年次になるとマーク模試が多くなり判定が出る中、いつもはE判定ばかり。特に総体前はとても忙しく、勉強はほとんどしていませんでした。総体が終わってからなかなかスイツチが入らず、日にちはどんどん過ぎ去っていきました。学校が受験モードになってくるとようやく頑張ろうと思いい、夏休みは朝から夕方までみっちり課外を受け、夜は授業の復習をひたすらしました。課外では「授業の意味がない」と言っけて抜けていくクラスメイトが増えていき、最終的には

5人くらいになってしまった授業もありました。それでも、最後までやりきったことが一番のアドバンテージになっています。

センター試験では自分の出来る限りの力は発揮でき、最終判定はBに。二次試験はほとんど対策をしていなかったのですが、また1からのスタート。楽典、新曲視唱、聴音、音楽、ピアノ、面接とどれも課題の中、特に私は聴音が苦手でした。絶対音感があるわけでもなく、母に手伝ってもらい毎日毎日音をとりました。思うように歌えなかったり、なかなか面接の練習がうまくいかず、投げ出したくもなりました。それでも応援してくれる家族や友達、先生方のためにも「絶対合格しなきゃ」という思いが強くなり、朝から晩までとにかく必死で練習を頑張りました。ある先生のアドバイスで、「試験官の先生に試験をしていただいてありがとうございます」と言う感謝の気持ちを持って大丈夫」という言葉をいただき、そのような気持ちを持って試験に臨みました。

特に5教科が必要になる皆さんは少数で、量も多く、とても大変です。しかし、全て教科を学習することで必ず強みになります。そして、受験で一番勉強になったことは、学校の授業や課外です。私の場合、受験勉強は、とにかく習ったことの復習です。それぞれにあった勉強スタイルを見つけて、睡眠をしっかりと、頑張ってくださいね！



『受験勉強を振り返って』

熊本県立大学 環境共生学部 環境共生・食健康環境

(一般入試 前期日程)

熊本学園大学付属中学校出身 R・K

私が受験勉強を始めたのは部活を引退した後です。部活を引退する前までは、家庭学習は宿題のみが精一杯。授業で寝ることも多く、定期テストではテスト期間に入ってもなかなか勉強に切り替えられず平均点を大きく下回ることもありました。そんな調子だった私が受験を乗り越えられたのは大きく二つの理由があります。

まず、切り替えを上手くできたことです。部活を引退したらあつという間に夏休みに入ります。夏休みは受験生にとつてとても大切な期間で、それまでに受験モードに切り替えられるかどうかは大きなカギになると思います。私は自分が思っていたより早く部活から勉強へ切り替えができて、夏休み中は一日十時間を目標にして勉強に励みました。また、センター試験後の切り替えも大切だと感じました。私はセンター試験の点数が目標点に届かず、志望校を変更しました。志望校を変えると、二次試験の試験科目や問題傾向が大きく異なります。第一志望の大学を諦めることはショックでしたし、試験科目も一つ増えたので対策が追いつくか不安でしたが何とか切り替えて勉強に励むことができました。

次に、周囲の人からの支えです。特に友達の前には私にとって大きかったです。受験勉強を始めたばかりの頃の私は、今まで与えられた課題しかやってこなかったの何から手を付ければ良いのか分かりませんでした。その時に、この問題

集をとりあえず解いた方が良いとか、これは覚えておいた方が良いとかアドバイスをくれたり、分からないところを私が理解できるまで根気強く教えてくれたりする友達がいました。模試の判定が上がったら自分の事のように喜んでくれる友達や、休みの日まで一緒に勉強してくれる友達、試験を目前に受かる自信が無いと言ったら「里奈なら大丈夫！絶対受かる」と言ってくれた友達もいました。『受験は団体戦』という言葉をよく耳にしますが、本当にそうだと思います。友達の前には無ければきつと合格に辿り着けませんでした。

最後に、長期戦

となる受験において大事なのは最後まで諦めないことだと思えます。辛いことも多いですが、途中で投げ出さずに頑張り抜け合格に辿り着けるはずですよ。拙い文章ですが少しでも私の体験記が次の受験生の役に立ってくれればと思います。



「鹿児島大学への合格体験記」

鹿児島大学 工学部 建築学科

(一般入試 前期日程)

東野中学校出身 H・T

私が大学受験を頑張ることができたのは、一緒に勉強してくれた友達や兄の存在が一番だったなあと今までを振り返って感じる事ができました。私は部活をやっていたので、6月の高校総体まではあまり勉強はしていませんでした。しかし私には一つ上の兄がいたので、2年生の後期の後半ぐらいから受験というものを意識し始めました。そして総体が終わり、進路について考え始めました。家庭の事もあり熊本に残るべきだと思っていたのですが、自分の力では熊本大学に及ばないことを感じ、なるべく遠くない鹿児島大学に行きたいと思うようになりました。鹿児島大学を目指して勉強していく中、周りの友達は塾に行くようになり、私も誘われることがありましたが、2年生のとき一緒に勉強してくれた友達は塾に行かず、自分と勉強してくれていたこともあり、結局最後まで塾に行かず自力で頑張り続けました。

また秋になると模試が増え、自分の今の状態を知ることになりました。結果が返ってきたのは落ち込む日が続きました。でも模試は、センター試験や国立大の前期・後期の練習などで、それらの結果に一喜一憂することには、何の意味も無いと感じました。たぶんこれから受験をひかえる方もそのように感じる事があると思います。また勉強中はいろいろな誘惑との戦いでもありました。集中できないときは動画を見たり、ツイッターを見たりしていました。いま振り返ってみ

るとそのような時間が多かったです。でもセンター試験の1カ月前になると勉強する時間が多くなりました。受験勉強としては一日4時間の目標を立ててやりました。センター本番は思った以上に緊張しました。でもセンター試験から国立大の前期試験までほとんど一カ月しかなかったのも、ここで気が緩むと負けると思い、その後も勉強を同じペースで続けていきました。

その時も友達と一緒に勉強を続け、その時に友達の存在の大きさを知ることができました。大学受験は自分との戦いでもありましたが、友達との絆や信頼の中で支え合っていくことが多く、友達の存在が自分の中で一番大きなものになったと実感しました。自分が受験勉強を続けられたのは仲間が存在があつてこそだったと思います。大学受験をするときや何かしらの試験に臨むときは一緒に勉強し合える仲間をつくる事が大事だと思っています。



「炎鵬に助けられた受験」

鹿児島大学 工学部 先進工学科電気電子工学プログラム

(一般入試 前期日程)

桜木中学校出身 F・K

はじめに文章を書くことはあまり慣れていないため拙い文になることをお許しください。僕は高校受験に失敗し学付に入学しました。そのせいもあって一年次は勉強もせずだらだら過ごしていました。そして二年生の春、塾に行きました。当時、国立大学どころか私立大学すらこのままでは受からな

いと言われたことは鮮明に覚えています。そのとき、とっさに旧帝大を目指そうと決めました。旧帝大にこだわりはなかったのですが、自分にとっては地方国立大も旧帝大も先が見えないという点では変わらなかったというのが本音です。この決断は自分にとって大きな変化を生みました。というのも、高見を目指したおかげで成績の伸びも良く、モチベーションの向上にもつながりました。この経験からワンランク上の大学を目指すことは成長に大きくつながるのではないのでしょうか？

ここで自分の勉強法について少し紹介します。ただ、勉強法は人それぞれなのでそれを見つけていくことも受験の醍醐味だと思うので参考程度になればよいです。まず、一度決めたことを簡単に曲げないことです。

受験生は精神的に不安定なものなので一つの道を信じぬくことが後半自信につながると思います。二つ目は勉強は一人でやること。友達と勉強をしても効率はありません。二つ目は勉強は一人でやること。友達と勉強をしても効率はありません。二つ目は勉強は一人でやること。友達の存在は大きいですが、くっついていないことが

仲間とは言えないですよ。最後に一番大事なことを述べます。それは、頑張りすぎないで息抜きも大切だということ、苦しいだけの受験なんて普通すぎます、ライバルに勝つためにライバルと同じことをしたってつまらない、受験すらも楽しめたら最高じゃないですか。

ただ、自分自身辛い時期もありました、そんな時、母から送られてきたCMに本当に救われました。その内容こそタイトルの炎鵬なんです、周りに何と言われようと自分を信じ続ける、そうして大逆転は起こりうるということを皆さんにお伝えしたいです。自分にも多くのピンチがありました、セクター試験での不調、前期試験前夜は寝れずに徹夜。そんなとき、自らを動かした言動力こそ「大逆転は起こりうる」この言葉です。先生、親、友達、みんなの支えでここに来たんだと感じれるんです。最後に、「さ、ひっくり返そう。」



「前進のみ」

鹿児島大学

法文学部

法経社会学科

法学コース

(一般入試 前期日程)

豊野中学校出身 A・R

「現状維持は後退するばかりだ」。かの有名なウオルト・ディズニーの名言であり、今の私の座右の銘です。

2年生で成績を上げた私は、3年生に進んで、「今のまま行けば、どこか受かる」という浅はかな考えを持つてました。実際に成績が上がるとおそらく多くの人が考えることでしょう。それまで人並みに勉強はしていたのですが、実際に危機感を抱いたのは、10月下旬ごろ(遅すぎ)で、センター試験まで苦労したことを覚えています。しかし、先生が「焦るくらいなら勉強した方がいい」と話してくださったのをきっかけに、少しでも多く勉強しようと思えて、気持ちが悪くなりませんでした。疲労で体調を崩してしまい、うまくいかないことがあっても、今できる事、明日すべきことをしっかりと考えることができました。センター本番は、正直満足いく結果にはなっていないです。でも、やりきったし、2次でも頑張ろうと思えました。

2次対策では、教科が減る分内容が深くなるので、センターで心掛けていた復習をより強化しました。学校で解いた問題や、赤本から苦手な所をピックアップして、一冊の冊子みたいにする。センター試験対策で身に付けた習慣をしっかりとやりとおせました。おかげで、前期に合格することができました。

受験とは、みんな競争うけど、スタートのタイミングや目

指すべきゴールの違う徒競走のようだな、と思いました。3年生になったらスタートではありません。2年生、1年生のときだって、目標を立てれば、スタートできるし、日々の授業やその予習・復習、定期考査を頑張ることで、ゴールに近づくこともできます。ライティングで失格、なんてことはありません。より早くゴールにたどり着くだけなのです。

ではゴールに近づく具体的な方法とは？やるべきことをやるだけです。私は高校3年間1回も塾に出入りしてません。通信講座もしてません。授業の予習をして、学校に来て授業を受けて、帰って復習。テスト前に徹底的に教科書を読みこ

んでもう一度復習。それだけです。もちろん目的を持って塾等を利用するのならそれはとてもいいことだと思えます。ただ、塾に入って安心するのは、非常にまずいと思います。目的を持って努力して初めて前進と言えるのです。

うまくいって現状維持してしまおうと、誰かに追い抜かれます。すなわち後退です。ゴールにたどり着きたいなら、前進あるのみです。



「宮崎大学の合格体験記」

宮崎大学 教育学部 学校教育課程

発達支援教育コース 特別支援教育専攻

(一般入試 前期日程)

菊陽中学校出身 M・Y

私は、周りの友達と比べて筆記試験が全然できなかったの
で、面接やそれ以外のことで皆さんの役に立つことを祈っ
て、この合格体験記を書こうと思います。

私がこの大学に合格できたのは、特別支援教育の先生にな
るという強い夢があったからだと思います。夢をもつことで
その大学で学びたいという気持ちがより強くなります。

ここで、私の二次試験のことについて話すと、第一志望校
のセンター試験の判定がD判定で、受かる見込みはほとんど
ありませんでした。宮崎大学は、二次試験が500点満点で
面接の配点が300点もあることを知り、受験することを決
めました。しかし、宮崎大学もD判定だったため、正直諦め
の気持ちもありました。

筆記試験の勉強は、学校で配布されたプリントやチャート
式を繰り返し解きました。センター試験が終わってしばらく
は、結果が悪かったこともあり、なかなか勉強のやる気が出
ずに怠けてしまいました。今まで一緒に頑張ってきた友達
からの励ましや、二次試験に向けて必死に頑張っている友達
の姿を見て、自分も気持ちを切り替えて二次試験の勉強に取
り組みました。

特別支援教育の勉強は、定まったテキストがなく、難しい
と思います。私は、自分なりの合格ノートを作り、特別支援

教育に関連する新聞スクラップや文部科学省の見解、さまざま
な本を読んだの感想・意見をまとめたりしていました。ま
た、職員室の進路指導室に何度も足を運び、先輩方の受験報
告書を読み返して、聞かれた質問について自分なりの答えを
まとめ、担当の先生と面接練習を繰り返し行いました。そ
して、私は志望理由に最も時間をかけました。なぜ、その大
学を選んだのか、自分はなぜその夢を持つようになったのか
というのを具体的に考えて、自分の言葉でまとめていきまし
た。

面接で最も大切なことは、大学の教授の方々に自分の熱意
を伝えることだと思います。本番の口頭試問
では、想定していない問題も出されてパニッ
クになってしまうこともあると思います。そ
のときは、上手に伝えようとせず、自分の勉
強してきたことを振り返りながら、落ち着い
て話すといいと思います。自分が難しいと思
った問題は、周りの受験生も難しいと感じま
す。無理に硬くならず、自分の思いを精いつ
ぱい伝えてください。

前期・後期の試験に加えて、推薦入試やA
O入試、指定校推薦など、自分の未来をかな
える受験方法はたくさんあります。その中で
自分の強みとなるものを見つけて、最後まで
あきらめずに突き進んでください!!この合
格体験記が少しでも皆さんの役に立てば幸い
です。



宮崎大学
University of Miyazaki

「後悔体験記」

熊本県立大学 総合管理学部 総合管理学科

(一般入試 後期日程)

江原中学校出身 S・Y

初めに書いておくが、私は部活で鍛えてもらったにもかかわらずメンタルが激弱な人間だ。しかも周りの目を気にして見栄を張ろうと理想を高く持ち、すぐに折れてしまうような人である。私に少しでも共感できる人は(あまりいないと思うが)一刻も早く自分と向き合い、性格を直してほしい。さもないとあなたは受験に失敗するだろう。

これは大げさなのではない。実際、受験期の私の気持ちはジェットコースターのように毎日上がったり下がったりしていた。少し問題が解けるようになっただけで自分を過信してしまい、逆に模試の成績が悪いとすぐ落ち込んだり、ということの繰り返しであった。そんな中でも勉強はやめなかった。家庭学習のみではなく朝は6時半から遅くても7時には登校し、昼休みや放課後も最後まで残って勉強した。しかし思ったように成績は伸びなかった。いい大学に行きたい、選抜クラスなのに成績悪いと馬鹿にされる、などと考えながらただがむしゃらに勉強していたからだと、今になっては納得できる。結果、先に受けた2校は不合格。しかも国立前期に受けた大学は苦手数な数学を二次試験に課す大学だった。それなのに過去問を見て、解けそう、とまたも過信してしまっただ。しかし勧められた県大総管のB方式はセンター3教科で受けることができ、点数の良かった教科を活かし、合格することができた。そこではじめて私は状況と能力、得手不得手

を分析し、自分に一番合う道を選ぶことが大事だと気付いた。そう考えると私にはこの大学があっているのではないかと思えた。

私の受験体験はみじめで恥ずかしいものとして私の心にあるが、受験はもう終わったので過去のことは置いて次のステージでまた新しいことを頑張ろうと思っている。これを見ているあなたも周りの目、過去の成績のことや偏差値なんかは捨たうえて、受験に挑んでほしい。もし受験に失敗しても死ぬわけじゃないし、みんなまだ若いのだからいくらでも取り返しはつく。でも常に自分自身を分析し、自身の考えに固執せず、自分の希望と状況を照らし合わせ、納得できる道を選んでほしい。第一志望の大学に行けることだけが成功なのではないと私は思う。

私はどんなにいい勉強法を知っていても考え方がだめだと成績も伸びない、と思っている。成績を伸ばしたいなら、まず自分の考え方、ものの見方から疑ってみてはどうか。



「やりきることの大切さ」

鹿児島大学 水産学部 水産学科 水産資源科学領域

(一般入試 後期日程)

出中学校出身 T・I

この合格体験記を書いている今でも、合格の実感があまり湧いていません。私は釣りが好きだったということもあり、入学直後から水産の道に進みたいと思うようになりました。その時から長崎大学水産学部という目標を掲げていました。

この学部にはセンター試験を課さない推薦入試があったので三年間、定期考査対策などを積極的に取り組んできました。推薦対策は担任の岩下先生や、吉永先生らのアドバイスを受けて頑張ってきました。しかし、結果は不合格でした。

協力してくださった先生方や両親に申し訳ないと思うと同時に、一般入試で合格して見返してやるという気持ちになりました。センター試験まで約一カ月しかなく、自分なりに真剣にセンター試験対策に取り組みました。センター試験が終わった直後はそれなりに手ごたえもありました。しかし自己採点してみると六割もとれていませんでした。長崎大学水産学部の前期ではセンター試験が可否に影響しないので良かったのですが、後期の水産系の大学はすべてE判定でした。それでも水産学部こだわって後期は鹿児島大学に出願しました。二次対策は苦手なところを総復習し、何周も問題集を解き、前期前も合格発表前までも受かる自信がありました。しかし前期の結果は不合格。準国立大学の水産大学校に合格したので後期は受けないと両親に言いましたが、「最後

まで諦めるな」と言われ、受けることにしました。

後期は小論文で岡田先生にお世話になりました。岡田先生の指導のおかげで小論文に少しずつ自信が持てるようになりました。後期当日、過去問が結構難しかったので少し不安がありました。しかし、小論文のテーマが推薦対策で学んだ水産関係の問題だったためスラスラとかけました。小論文に関しては自信があったけれどセンター試験がE判定だったのでまず受かっていないと諦めていたら合格していました。

私は推薦、前期と落ちた後に「努力は報われる」という言葉なんか信じられないと思いました。しかし今思うと推薦で努力したことが後期の小論文に生きてきたので努力は報われたのかなと思います。

この受験生生活で学んだことは「努力はいつか必ず報われる」、そして最後まで諦めずやりきることの大切さです。

最後になりましたが三年間指導してくださった先生方、受験生生活を支えてくれた家族、切磋琢磨してくれた友達、ありがとうごさいます。



「受験勉強が教えてくれたこと」

鹿児島大学 法文学部 人文学科 多元地域文化コース

(一般入試 後期日程)

武蔵ヶ丘中学校出身 R・N

私は、私立大学を一つも受けず、前期試験にも失敗し、残された後期試験は1.8倍という崖っぷちのところ、合格を掴み取ることができました。受験を終えた今、達成感を噛みしめています。

まず私は「努力はいつか報われる」ことを再認識しました。私はよく「真面目だね」、「努力家だよね」と言われます。私は地頭が良くないので誰よりも勉強しないと、思っただけで努力してきました。一度、日曜日に15時間数学克服チャレンジをして死にかけてたこともありです。(笑)しかし、セクター試験では思うように点数が取れず、前期試験も上手く行かず、後期試験がまだ残っている中、努力することに疲れてしまいました。しかし、先生方が「後期試験は粘れば良いことがある」と励ましてくださり、再び頑張ることを決めました。推薦や前期試験で合格した人たちが受験から解放されているのを見ながら、勉強を続けることは正直とてもきつかったです。しかし、小論文を書くために様々な参考文献を読み、過去問を10年分解き、全力で取り組みました。迎えた本番では直前まで読んでいた本から問題が出されたこともあって、自分の実力以上に力を発揮することができました。努力が実になるタイミングは人それぞれです。思うように行かず、くじけそうな時もぎりぎりまで頑張ってみることが本当に大切です！

これを読んでくれている方はこれから受験に立ち向かっていく人だと思えます。皆さんの中には、「受験勉強だるい」と思っている人がいるのではないのでしょうか？もちろん私も授業よりも部活の方が好きでした。(先生方すみません)しかし、この1年間本気で勉強し、1番苦手だった英語が大得意になりました。もともと、興味のある分野がなく、将来的に役立ちそうな経済系の学部を志望していたのですが、セクター試験後に急遽、英語をもつと勉強することができると学部に進むことを決めました。私の場合、だるいと思っていた受験勉強が自分の世界を広げ、大学でやりたいことを見つける機会となりました。

最後に・・・「受験勉強にフライングはない」とよく言われています。大学受験は思っているより甘くありません。早いうちからやる気スイッチをONにして、第一志望合格を掴み取ってください。



国立大学法人

鹿児島大学
 KAGOSHIMA UNIVERSITY

「合格を振り返って」

人吉市役所

(就職 公務員)

菊陽中学校出身 N・F

私は、同級生の他の皆さんとは違った進路を決定しました。違った進路というのも大学進学ではなく、一足先に就職という道を選びました。就職を選んだ理由は二つあって、一つは大学で深く学びたいと思う分野を見つけれなかったからです。以前はイラスト関係の仕事に興味を持っていてその方面の進路というのを考えていましたが、その興味が薄まりお金をかけて大学に進学するメリットが無いと考えました。

もう一つは、公務員の仕事が自分に向いていると思ったからです。公務員は、地域の人の関わりが深く、地域全体に影響を与える仕事であることに興味を持ちました。そして、私はパソコンを使うことが好きなので、事務仕事も楽しくこなせると思ったので、高卒で就職するのも一つの手だと考えました。

私が公務員試験に臨むうえで一番大変だったのは筆記試験の対策です。試験前になつて何度ももつと早くから対策をしておくべきだったと後悔しました。試験の出題範囲が広く学校で習わない問題もあったので、授業で習うことに関しては一年生の頃からしっかりと復習して様々な教科に対応しておくべきでした。後は、先を見通し、試験勉強の計画をしっかりと立てておけば良かったと思います。大体の自治体の試験は九月から十月の間に実施されたので夏休みが明けてからは学校の授業と並行して公務員の勉強をしなければならず、公務員

の勉強だけに集中できないことに焦りや不安を感じました。そのことを意識して、試験勉強を進めれば良かったと思います。

面接試験に関しては、対策というよりは人間力が試されるような質問が多かったような印象があります。日頃の生活から目上の方と話す際にしっかりとした言葉遣いを心がけることと、頑張ったことや印象に残った体験など自分にとってプラスになるような経験があれば、細かいところを忘れないようにメモしておくこと面接対策において有利になると思います。

これから就職を目指す人に伝えたいことは、自分の選択に自信を持つてほしいということです。私自身、大学進学をせずに就職すると周りの人に伝えた時に、「大学に進学した方がいいと思うよ」と言われて悩んだ時期もありました。他の人と違う選択をすることは大きなプレッシャーでもありますが、将来は人それぞれなので周りの人になんと言われようと自分ができることすべてに積極的に挑戦していつてほしいと思います。これから頑張ってください。応援しています。



編集後記

毎年、この時期になると、卒業生諸君との別れに一抹の寂しさを感じつつも、将来に向かって羽ばたく姿を後ろから眺めながら、いつの間にかとても頼もしくなった卒業生諸君の後ろ姿に感動を与えてもらっています。

さて、昨今の社会の変化においては、AI技術を初めとする第4次産業革命によって、我々は、人類史上5番目の新しい社会を経験しつつあります。つまり、狩猟社会→農耕社会→工業社会→情報社会に続いてSociety (ソサエティ) 5.0と呼ばれる5番目の社会のことです。また、国連が掲げた「持続可能な開発目標(SDGs)」のための2030アジェンダを構成する17のグローバル目標に向けた、国際的で包括的なパートナーシップの活性化が急務となってきました。

そういった社会背景からの高校教育を取り巻くニュースと言えば・・・

- ・ 高大接続改革
- ・ 大学入学共通テスト
- ・ 英語4技能
- ・ 新しい時代に求められる資質能力の三要素

「知識及び技能」の習得

「思考力・判断力・表現力等」の育成

「学びに向かう力・人間性等」の涵養

・・・などなど、急激な変化が渦巻き始めてます。

2020年問題などと言われるこれらの改革に関しては、今年起こることではなく、今までが変化の真っ最中だったのです。このことは、私立大学定員充足率の厳格化や、国公立大学のAO・推薦入試枠の拡大等々、実際の可否追跡調査か

ら見られるデータにも如実に現れております。

そこで、今年顕著であったのは、入試改革に対する不安感からか、国公立大学でも安全志向による出願傾向で、私立大学では入学定員の厳格化に伴って、きわめて難化したということですね。私立大のセンター利用入試では、センター試験の得点でA判定だった者も不合格となった例が数多く報告されました。一方、模試判定でD判定やE判定からの大逆転により合格を勝ち取った生徒も少なからずいたのも事実です。その特徴としては、面接や小論文や探究型の試験といった、「正解」を素早く求める従来の知識重視型の試験ではなく、「納得解」を正確に他者へ説明する技量が求められる試験が多く見受けられました。

大逆転による合格報告は周囲を大きく驚かせる事ですが、その大きな反応とは真逆に、面接指導や小論文指導の担当者からは、驚く反応があまり見られませんでした。それはなぜでしょう？もちろん、皆さんの合格が嬉しくないわけではなく、実は、面接や小論文の指導中に、合格した生徒が高校生活を通じた志望校決定までのプロセスにおいて、誰もが納得し、かつ、具体性を持ったポートフォリオへの反映が十二分になされたものであったとの事でした。そうです、彼らの合格は「偶然的な合格」ではなく「必然的な合格」だったので。担任や教科担当者は、諸君の合格に納得でした。

付属高校生諸君・・・この合格体験記に記してくれた各先輩方の取り組みから、何かをつかめるのではないのでしょうか。

・・・次は、いまこれを読み終わったあなたの番です。